

◎ 75%ルール of 改善案 計算方式改善

1～12月の管理期間で4月15日に75%を超えた場合

現行75%ルール
 配分 = (① + ② + ③) - 現TAC

5,000トン = 18,800トン (① + ② + ③) - 14,000トン (現TAC)

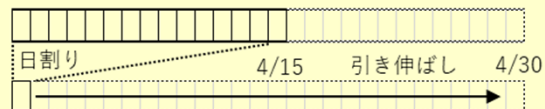
※ 千未満切上げ

① 1～3月実績値 (基準日の属する月の前月まで)
 (例) 10,000トン

② 4月 (基準日の属する月)

(例) 4月1日から15日までの実績2,000トン / 15日 × 30日
 = 4,000トン

・ 基準日までの漁獲量を基に4月末まで引き伸ばし



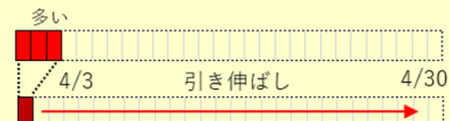
③ 5月 (基準日の属する月の翌月)

(例) 5月の過去5年の上位3平均3,200トン × 特異率1.5
 = 4,800トン

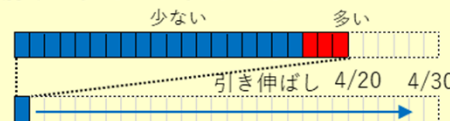
・ 過去5年の上位3平均の値を用いる
 ・ 特異率が1以上の場合、特異率を乗じる
 特異率 = 1～3月実績値 / 1～3月の過去5年の上位3平均

現行75%ルール
 の問題点

・ 基準日が月頭で、漁獲が多いと多くなる



・ 基準日が月末で、直近の漁獲が多くても、月前半が少ないと少なくなる



・ 翌月の過去実績が少ないと少なくなる

改善案

以下の2つの計算方式のうち、数字が大きい方を用いる。

計算方式1 (P.2参照)

計算方式2 (P.2参照)

※ なお、このルールの適用にあたっては、従来より日別データの把握が前提となっている。

◎ 75%ルールの改善案

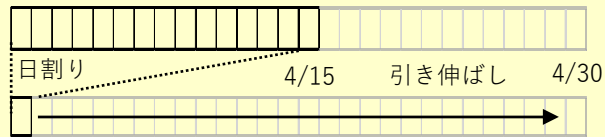
以下の2つの計算方式のうち、数字が大きい方を用いる。

計算方式 1

現行

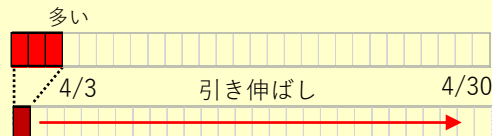
② 4 月（基準日の属する月）

4/15までの漁獲量を基に4月末まで引き伸ばし

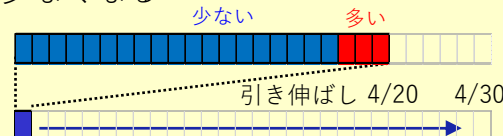


問題点

・基準日が月頭で、漁獲が多いと多くなる

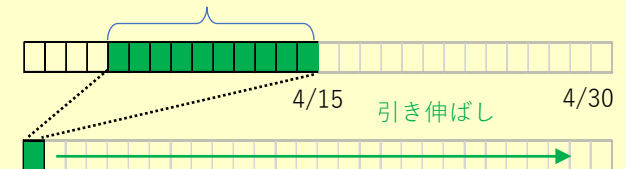


・基準日が月末で、直近の漁獲が多くても、月前半が少ないと少なくなる



改善案

直近10日間の平均で引き伸ばし



改善のポイント

月内の基準日の位置にかかわらず、基準日前10日間の漁獲状況を反映

※①・③の計算方式は現行のまま

計算方式 2

現行

③ 5 月（基準日の属する月の翌月）

過去5年の上位3平均×特異率

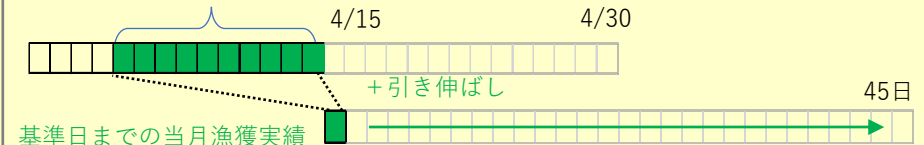
・特異率は1以上の場合乗じる
特異率 = $\frac{1 \sim 3 \text{ 月実績値}}{1 \sim 3 \text{ 月の過去5年の上位3平均}}$

問題点

・翌月の過去実績が少ないと少なくなる（翌々月以降の実績が考慮されない）

改善案

直近10日間の平均で45日間引き伸ばし



改善のポイント

基準日の属する翌月の過去実績が少なくても、基準日前10日間の漁獲状況により配分が可能

※ ①の計算方式は、基準日までの実績値に変更。
②及び③に代えて改善案を用いる。

◎ 75%ルール of 改善案 トリガーの追加

問題点

基準日が75%超過日のみ

- ・ 75%超過日に追加配分が出ないと、その後は一切、75%ルールに基づく追加配分ができなくなる
- ・ 追加配分時に、追加配分後の数値の75%を超過している場合がある
- ・ 特に当初配分が少ない場合、75%超過時点でのTAC残量が少なく、追加配分前にTAC超過のおそれ

改善案

トリガーの追加

- ・ 75%で追加配分がゼロ ⇒ 80%、85%、90%で再計算を可能とする
- ・ 追加配分の時点で追加配分後のトリガーを超過していた場合、追加配分日を基準日として計算することを可能とする
- ・ まいわし対馬暖流系群で導入している1,000トントリガー（TAC残量が1,000トンを切った時点トリガーとする）をまあじ、まいわし太平洋系群、さば類に追加する